

繪

河內名所鑑

二

河内名不記 綿部郡

天野山

小山田

月野

扇山

光瀧寺

岩涌寺

加賀寺

小塩

玄田屋

阿波國文庫

不惑文庫

西板橋

大田

後山池

小野田

文六

原寺

西村

美提



石佛

丹南郡

河添

同前

三日市

同前

上田八幡

同前

鬼住

同前

河合寺

同前

金胎寺

同前

横山天神

同上郡

伏見堂

丹南郡

皮方

古市郡

綿那

同前

多向

白神津廟

同前

仲哀天皇御廟

権大馬廐

同前

西代

友井慶後

丹南郡

京村

野中村

同前

長野村

野中寺

同前

白神村

安閑天皇御廟

古市郡

市村

多戸城江

同前

多向田

古市雷文

同前

小白田

西琳寺

同前

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○天師

寺号ハ金剛也。其基菩薩開基の勝地なり。其後
弘法大師經りて其場あり。禪定仙院和歌の所也。
本堂ハ南じと大目ハ丈六脇立と不動尊三世
権化也。塔あり。親者堂業師堂と云ふ。伽藍敷あり。
河内橋門ハ眺沙ハ相面也。云々。河内弘法ハ此也。
と云。切敷七十坊あり。
丹生ハ神水ハ神孔雀眼と云。此ハ弘法敷多あり。
天照太神命才天女親王三法也。此ハ弘法敷多あり。
聖武天皇皇女勝王親和女
河内院
院宣
大織冠 自覺乃以經
光の書文自覺乃以經

廳宣

宣

論旨

倫旨

り
河
子
論
角
わ

傳紙金字の法華經を部弘法大師所自書也

米穀^{こめ}より^もなり^{なり}米^{こめ}代^{しろ}に^に軍^{いくさ}門^{かど}米^{こめ}代^{しろ}あり

後醍醐天皇乃^り休^る也^ふあ^らん^の同^じ位^の所^を有^す

内^{あり}御^ご金^{しん}に本^{ほん}尊^{そん}親^{しん}意^いハ美^み因^{いん}以^い他^た地^ち為^なハ弘^{こう}法^{ぽう}以^い作^{さく}と云^{いふ}

午
子
戌
十
年
報
喜
御
天
長
後
醜
酬
天
皇
乃
以
他
快
普
院
始
意

撫親王聖澤太子此他度像之穴尺波歌院土面千手歌爲

河長
三度
あはれ作
智是
土面親
中長
天聖
酒名
柄之
抄
葺名
也

奇
 夢のさけ乃ち夢なりとて

煙好

せらみで瓶の事せん天野内久も香をもあつらん

山よりかきとるやまはむすみの酒
可正

あまの湯よりさき天野酒
檜板

くみんよふあふふを野橋 あまのうき
忠昌

背戸せと門かどよりや天地あめとちのうき

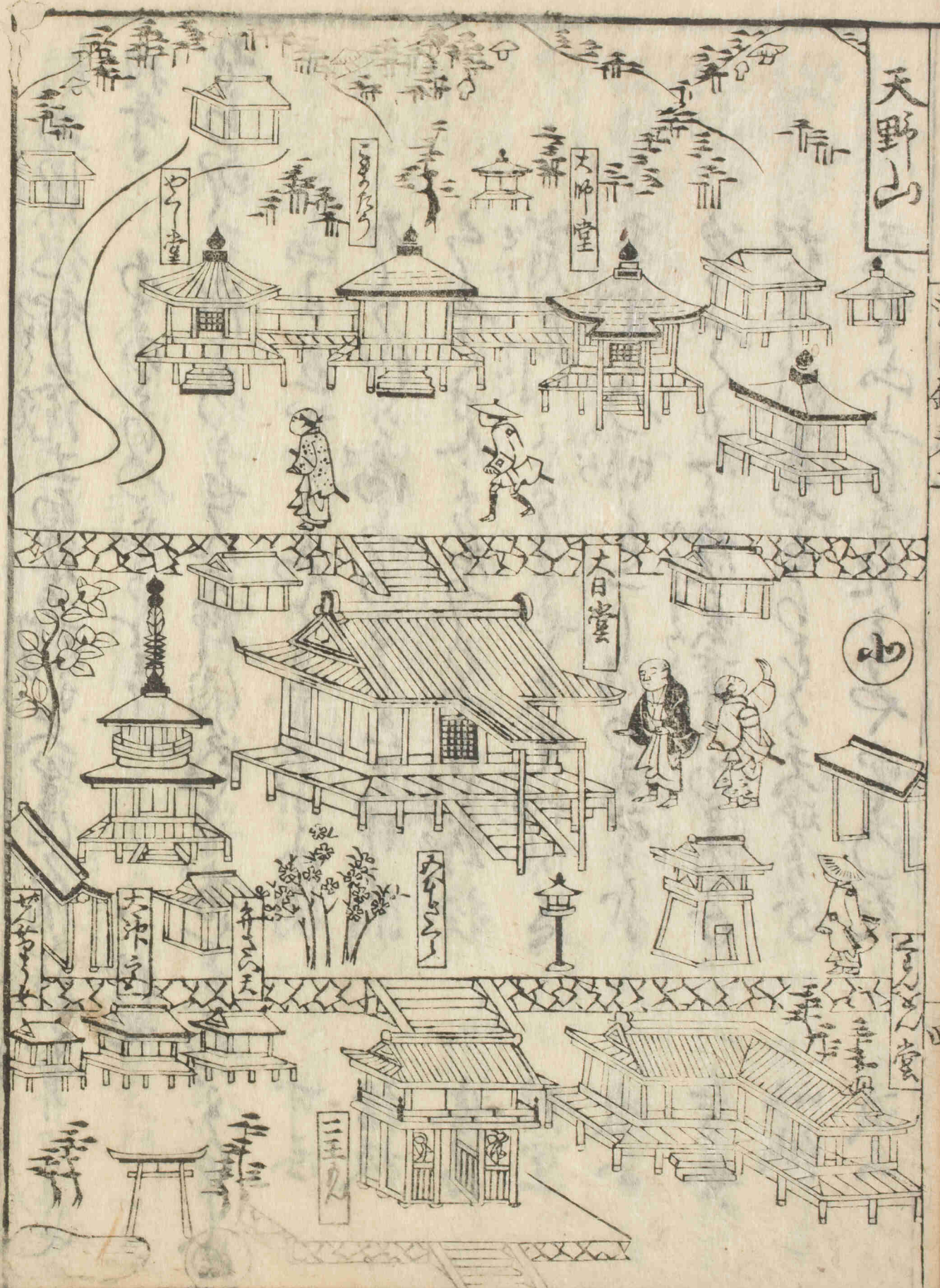
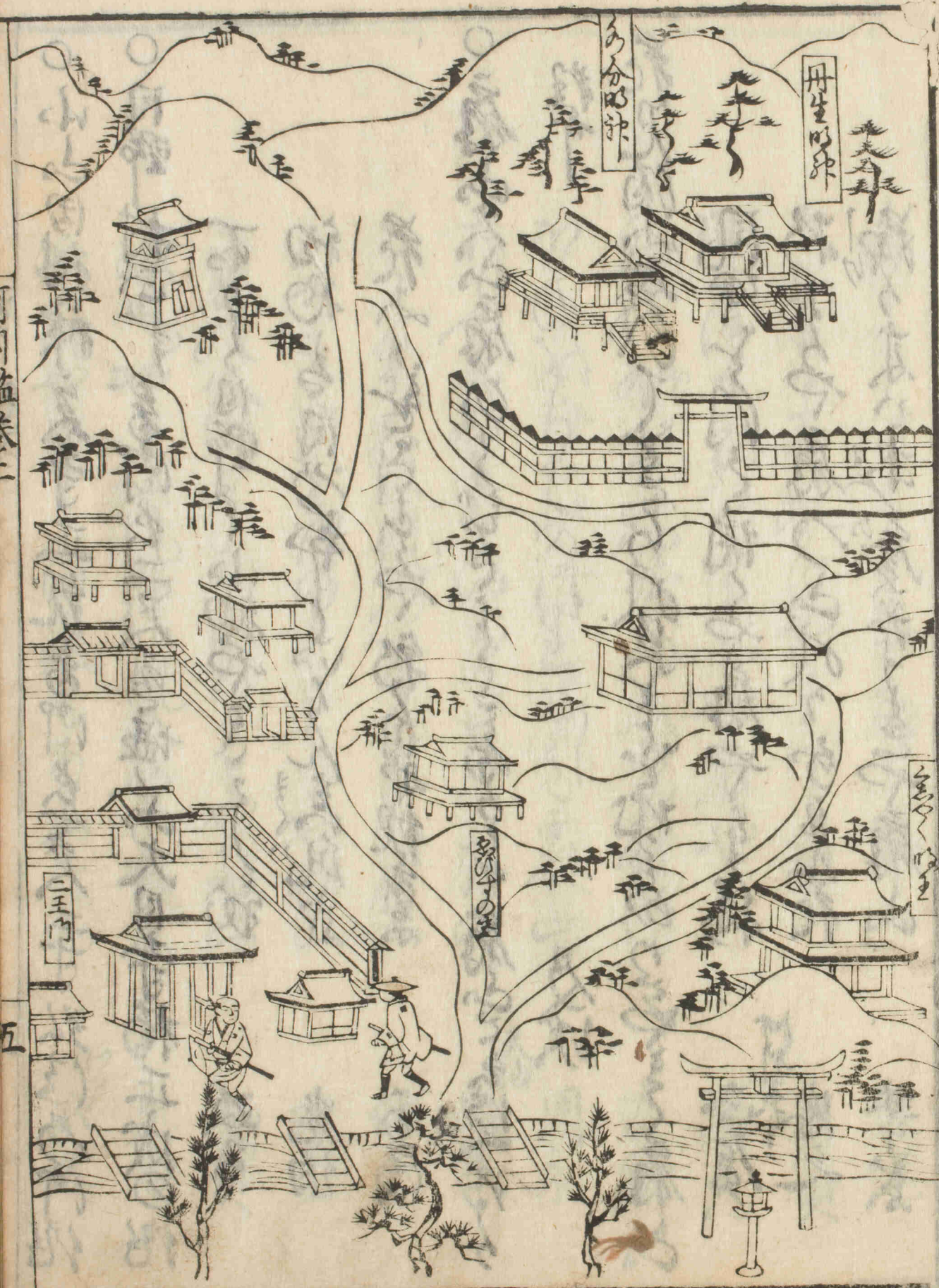
玄草の味と一海をまぎる
唯正

やまのうら
あふらんよ焼去草へわすれの家

重安

松茸れうさ差さやどどりりととろろ天てん聖せいううか
以も仙せん

天聖ふりそ記さや雪乃花
政公



○小山田村神又寺正親高河長七尺人二寸弘法乃河地

初也と目つ和しといふ人此

政云

花よりむとよや新自神親高

光伯

○麻山入麻ひくもいふとあつて麻と云はる

の清

花見

及以

花見酒あひてとられ是と云はるやと云はる

風流と云く用くや麻やと云はる

正房

初よりや麻つふれうかゆ花

忠之

初よりや麻つふれうかゆ花

華系

あつてけくたを麻山部云

良經

志より来れけやと云はる

良賢

風流の美とすくや麻やま

義元

友れかた礼後ういふ麻山

友和

初よりての麻と云はる

周永

あつてあつていふく麻山

政長

とくは風流のや麻山

仲宗

あつて目と河のまこと麻山

可圭

雲れ給やう来ひらる麻山

久貞

涼風や多凡神風あつて

未心

涼風や多凡神風あつて

正次

月も月とあつたらんらん庭
 かしこいらん女こはきかんぶや庭
 草と木も月も縁やうり庭
 月と月とあつたらんらん庭
 痛書てむらや金れ庭やま
 新書れ新よつや庭やま
 金と金とあつたらんらん庭
 秋の文やほりやれおの庭
 う市やうり庭やまは月
 庭とつ縁やうり庭やま
 月と月とあつたらんらん庭

一覽
及次
淳淳子
每確
可次
重次
及次
野鹿
正儀
良繼
林成

紅雲すうや皆くまわれぬ
う雷はまこと地なりし扇山
降はるる雷や白地乃扇山

正武
西謙子
林城

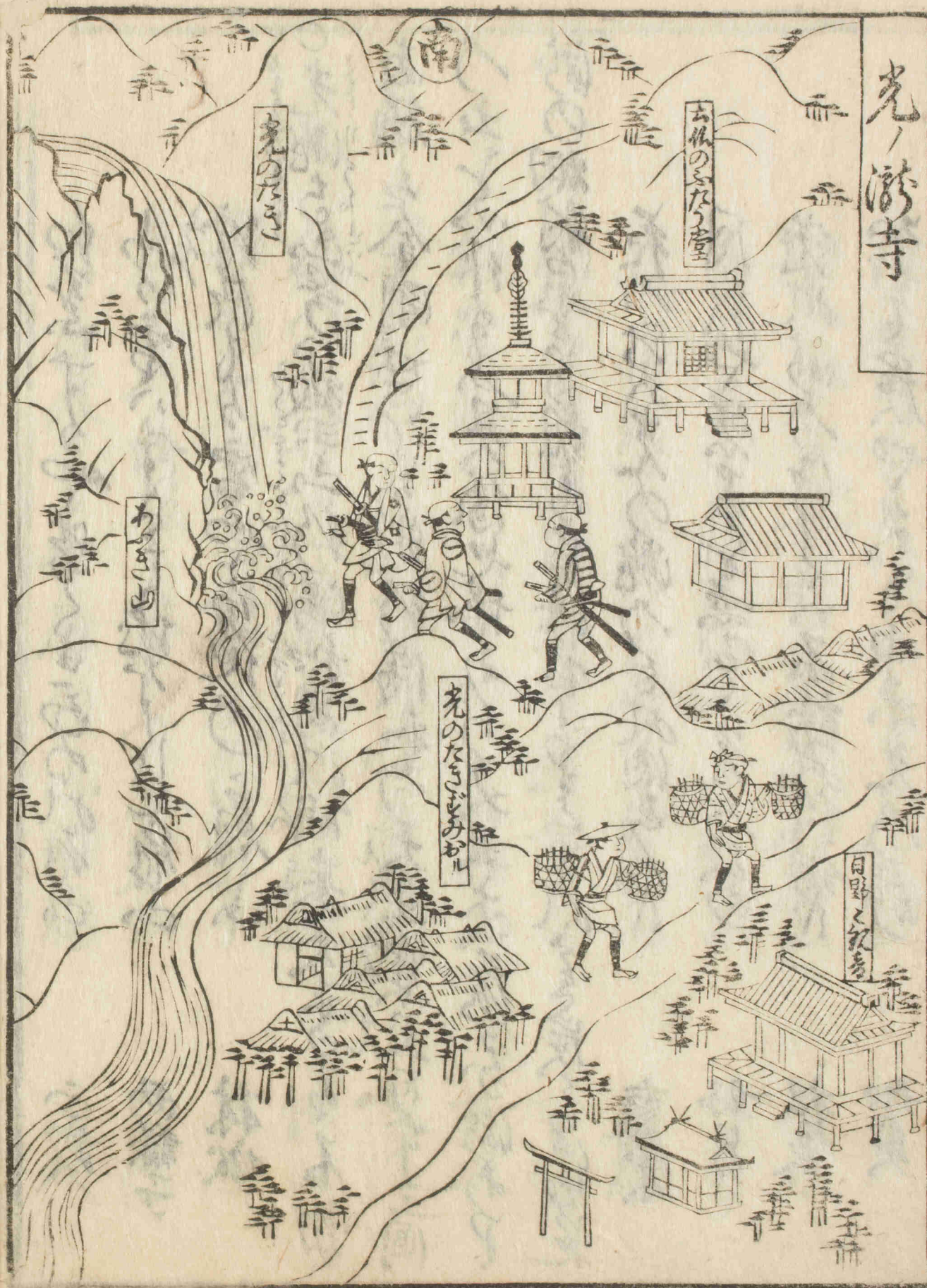
○光龍と一号ハ福王山ヲ滿和尚ノ開基本号トシ不動

西脇と金剛とにうづつ満ちて天竺震且月廿二酉
 乃とと外より其像也塔なり又五丈落ふ所あり
 湖の烟村家あり觀者有はるるといふれとて炭を以て是

花の光の影もれ雨あふ
月影や雲をともえ光る影
光れ影うつらうつら不動の影
かそ炭や火し白き光る影

重榮 好昌 松綠 如真

光ノ瀧寺



光ノ瀧寺土面観音大師一刀三乳山他所あり

岩涌や花ノ瀧に凡れ観音あり 一十

加賀八幡^{内西村} 交通ち石ノ瀧寺ノ梵字を^長二尺五寸

か田^{り田の}や山あふ橋へ出た地を^長 黒水

小極珠寶山折々敬寺土面観音^{二尺五寸} 聖徳太子の他

雲の谷村

花と大ととりとくたへり^長 則武

送り火や内いひと恵とねめや^長 政長

石仏村弘法ノ作と^長 秀綱

のら世とくけあ^長と神ひくと物来くく石佛なり

川原村観音寺正観音^長二尺三寸作るなり

○三月市何のほよりあらん高野よりてつちのう
ふふふ一宿やいふあふふふふて後無のきと

野山旅客

鳥丸賢英

うつやれ一軒のまゝわたりと書けきりあふふのき

集

月輪と茶師有観有育

弟哲

写ともたぬうれ市立にうつり碑ふとこれ金のうら

酒のそんまや生るうら市

意羽

桃れ酒賣うらやうら市

正寛

○と田い懐又ふけこれ八懐たつふらみあふふ似え故也

一切経堂有金佛れ釈迦立正法寺有観有育出長戸六寸

うら田村や海らうら田村八懐ふ

光伯

八まんが社銀の苗とら田か

保友

狂歌

弟立

ふらう様れわしと田あふふふふふふふふふふふ

月

貞室

あはれこれとむらふふふふふふふふふふふふふ

鹿もやうふもふふふふふふふ

政公

あはれこれとむらふふふふふふふふふふふ

津久

三月のややふふふふふふふふふ

周永

ぬれぬ八月とふふふふふふふふ

重次

ふふふふふふふふふふふふふふ

周永

校栗やうらうらふふふふふ

眞休

五ノノ八幡



○鬼伯首ハ小僧クシテ杖ヲリテ示有鬼乃塚あり

常樂寺茶所燈像延命寺石地蔵弘法山長

山号ハ法羅山ト号ス山長一若拳頭庵如意橋觀音太子山長衆山長

鬼伯ト云フモ此ノ山陰ノ邪 貞延

鬼伯の所ニハ身ヲ斬ルハ 唯正

手紙ニ云ク鬼伯乃リヤリハ 周正

○河合寺天智天皇御山長所ハ山号ハ寶珠山後ハ若村寺

上而千手觀音ハ初老山長此山長寺山長ありハ此山長寺山長久任

初觀音ハ此寺ヤイハカハ寺

初觀音ハ此寺ヤイハカハ寺 保友

於リ子レ寧ニハカハヤリハ寺 良源

金

志乃堂



高く坊

ほひ花とあぢきなく
金胎を

弘治

月と日乃新也陰陽之六奇

華英

やういふ晴や色嬌々村明雨

宣休

○換山天禪大石より恒出故に此地寺と号し西觀彙在（以長）石寺（石寺）白灰出

立身之見心機乃為非

周

撫子より志をいふ小菰子

一之

よこ山に月や照くる血かゝる色

扇斗

積山鼠子小栗

忠貞

と云ふやうな所での事

每雄高

横山乃白炭、
木くろ、多し、
石

撻板

○伏見堂観音心寺如意持観音座像一尺三寸
 枝方村蓮花心寺正観音住持院根極出ル
 綿糸村人丸田延輝如意持観音弘法座所長一尺三寸
 人丸のりみ
 深文乃山持なり一十
 同ノ枝と一十
 持本乃紅紫乃なりや綿糸
 〇向村惣持寺十一面観音計長二尺一寸五月の住
 〇永伸哀天寺以爲社殿石の鳥居有社傍に
 観音寺ハ普門寺と号ス正観音計長二尺一寸其ノ作

上原村



○西代村恩田の十一面観音 門長二尺一寸二分

○系村寶光山法華寺十一面観音 金佛 門長二尺一寸

○出野村極樂寺正観音 門長二尺一寸 後引者乃河地

○向野村紫雲寺正観音 門長二尺一寸 阿彌陀の作

○市村天祥いざり松法幢と十一面観音 門長二尺七寸 太子の作

夕涼しきものや人びいり松 唯正

乳落る月もやをいり雲 吉重

○南向田櫻路の釈迦堂有座像 門長二尺一寸

○北向田慈眼寺正観音 門長二尺一寸 地牛次天王社有

○西板橋の極楽寺 門長二尺一寸 同村有座像 東師有

○女山 山ありきあり 正音

○女山 山ありきあり 正音

はる山やまのりきありきあり 仲宗

花咲く老木もはる山やまのりきあり 西教

女山くもるやまのりきありきあり 周永

女山花うらみの山やまのりきあり 芳昌

女山れりきありきありきあり 周永

○市田茶師如來 門長二尺一寸 安樂寺より号ス

○後山池その石の梅有妙甚菩薩乃作なり

尺八樋ハ茶師の山和因金満也天下あてき 尺八樋の

茶師の山和因金満也天下あてき 尺八樋の

茶師の山和因金満也天下あてき 尺八樋の

タラハル　ふまふ　やふ　なふ

允信

[illegible]

良弘

為他秋風吹也尺八插

貞弘

り入やまの池小月うん

由久

いふにふくまれども他の月

唯正

銀羽とやうなものの沈み

通体

○山野曰茶呼如木許長二尺太子乃以飪

○文六村菑、文六乃救、加有今、ハ不勤、之佛、又災、非祐、也、

○永壽大聖寺菜牒如來門長二尺

○西村觀名寺十一面觀音坐一尺一寸

○黄桷村土面觀音
三丈二寸 鬼子母神社あり

○大村翁王授現骨古号八袂現古本号古山安久余里安此

養生天祿

とくしひとやとくしひとや

可為

○大保村河内鴻乃くすまひにりあともみゆへり

西よりつ月や大保乃かへん

水

○天武天皇御朝墨山上有桑原堂焉云云

政公

とらふるをいふと悪に非つゝあつて鳴神なる

轉乃珍やんふけふの素節を

致云

黒子子子子子子

貞弘

黒山や多し深と夕所毎

保友

くろ山村



河内村の河内地ちと号して上河内とて中河内

全河内系河内と云はれま也又皇道法師の河内

と云ていふ事ありと云はれまふ事ありと云て

河内といふ事ありと云はれまふ事ありと云て

河内といふ事ありと云はれまふ事ありと云て

河内といふ事ありと云はれまふ事ありと云て

河内といふ事ありと云はれまふ事ありと云て

河内といふ事ありと云はれまふ事ありと云て

河内といふ事ありと云はれまふ事ありと云て

河内といふ事ありと云はれまふ事ありと云て

河内といふ事ありと云はれまふ事ありと云て

○河原村むらう城あり

奥鱗（きりぎりす）やいくさうへんの森

一十

○西沼井あり天神

尊

富吉

老妻と又おねと東社より西に月申自在と神

あり妻よりくさねおねや神あり

好春

○小寺村茶師如來社（おんが）春の作山玄陽親あり

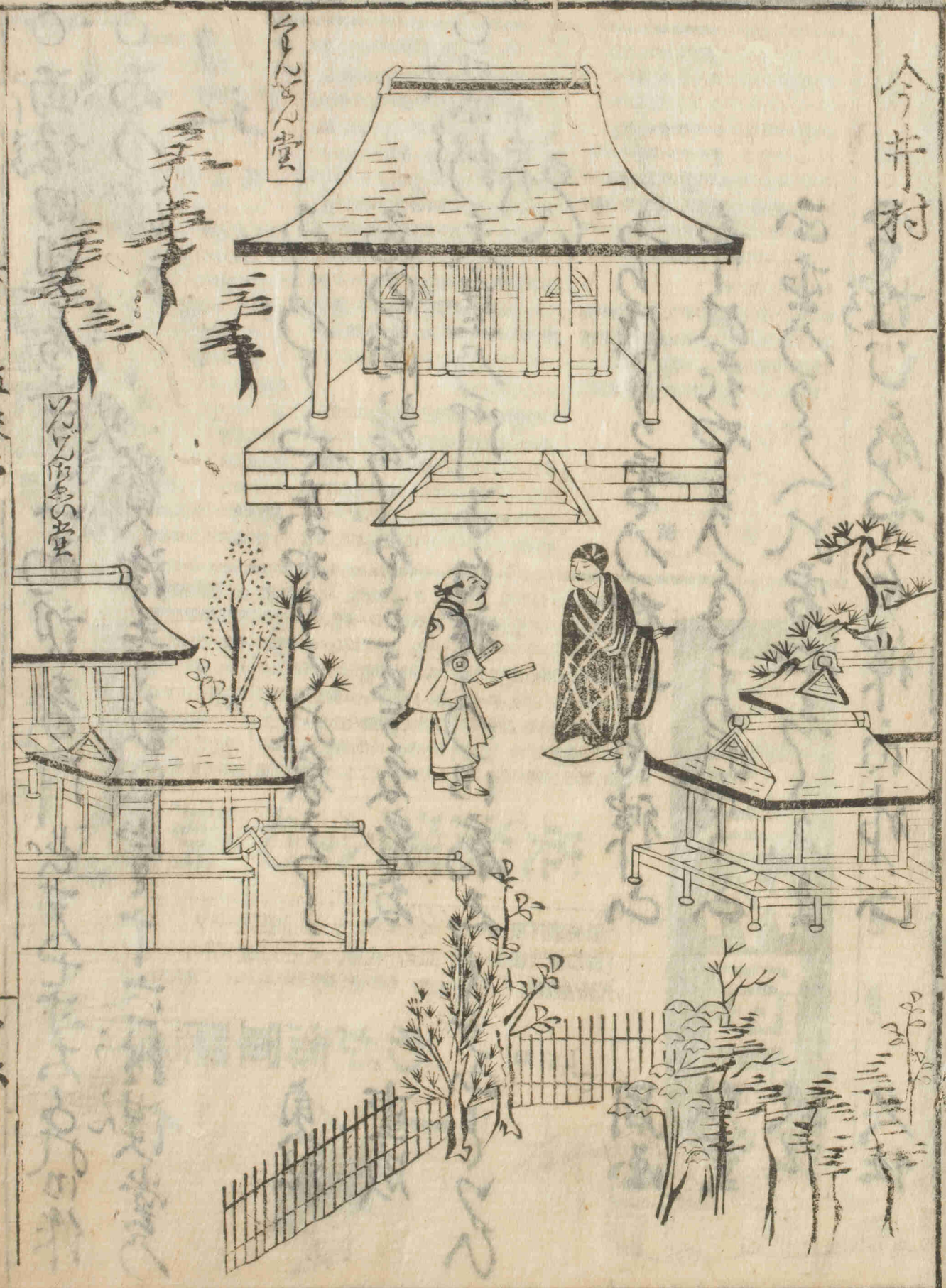
長八寸又くさね佛舍利あり

○今井村大寶山法雲寺惠極和尚開基本堂あり

本堂正親為雅後御長一尺六寸やく眼長八寸

龍女為財童子

今井村



○西坂田親高寺十一面親高寺一尺七寸太みね作
 ○西の浦新部山寶津寺釈迦堂十六段漢堂乃
 月記

ふろくや東おろくれ象さう

あつ海い海いやとらうななな

○景行天皇乃所子白神乃以所あうくふとつひ
 十五六

うのほりや雷乃柳や白神山

ゆれ花や多きふいりあがふ

ふまうくくれ雷やあうくま

雷埋じ所や白神の神ひ

貞弘

重成

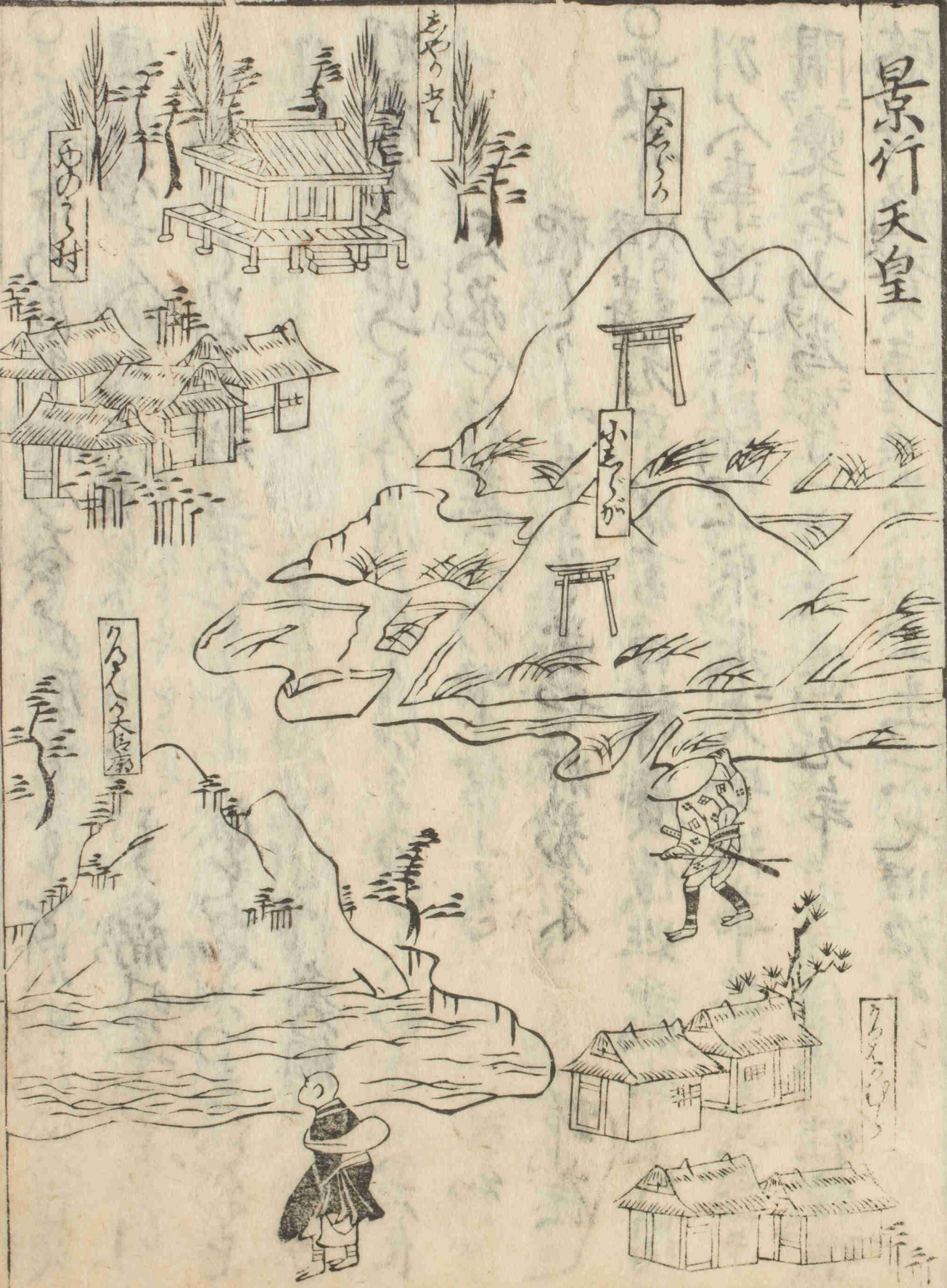
周必

弘室

政弘

久任

景行天皇



○文武帝乃下詔將大長秋廟有子と別村を以て遷せ
使内宿士人願ふ河内縣志と号せしむるも子彌々宰相初め
く王よりつる女那王孝と号んとて後におもひつゝ西郷と

狂家

秀綱

灯籠本れゆつとけ消えそはるのむらりやうと大長

天龍や將墓のうす常も

初知

将しくふとて雲や灯籠本

野鹿

○荻井野中村元亭釈書曰釋慶俊姓藤井氏内

列人事道慈學空宗居大安法華等寺堂

開愛宕山為第一世天應元年為僧都性懷悲

愍好施貧病矣慶俊出生也旧記あり

狂奇

河内野中 正信

おもろやれとあそつた荻井とて花より人より

さうり荻井ふつとてやゆり花

回恩

祿のいふむや荻井やん花かん酒

河内野中 正信

○野中村波乾高の太子所建立の地也則ち号の野中

本堂某師庭像一尺二寸亦十一面觀音立像一尺八寸

半以天王座像の佛やうんれ給ひ十七幅あり

○野中寺の号は龍山院号は徳蓮院聖徳太子の開基

蘇我大兄の弟也省七堂伽藍の天場といはれし乃は

乱のつらつとあつた人焼滅しゆとて人あつとく久あを

計ゆりつとて安に寛文のはの閑梨堂英と云ふてやう

多向んといふ清水や野中も 可山

たむくや野中に生る葉草 西尾

かんきんと鳴もや野中も 西後

○安閑天皇御廟を成る城の本丸のまゝに定むる廟を

○と小島山に建つ耐る宮をいふ形とて八百八の

城より作る恒城といふ也天皇のいふやむやむ

い城をいふと戸傳へたり南にあり堂といふ不動有

右城の島といふとくはくはくといふとむる也

殿よりいふとすくはくはくといふとむる也

月代のあやういふとくはくはくといふとむる也

西尾

○古市に常れまといふあり又白馬のまといふあり

やまといふとくはくはくといふとむる也

ふせやう市いふとくはくはくといふとむる也

まといふとくはくはくといふとむる也

○西琳寺

向原寺改テ号西琳寺上白河園之聖明王ヨリ赤梅檀之

釈迦像畏首端ヲ作開字檀金十一面觀音并經卷佛舍利

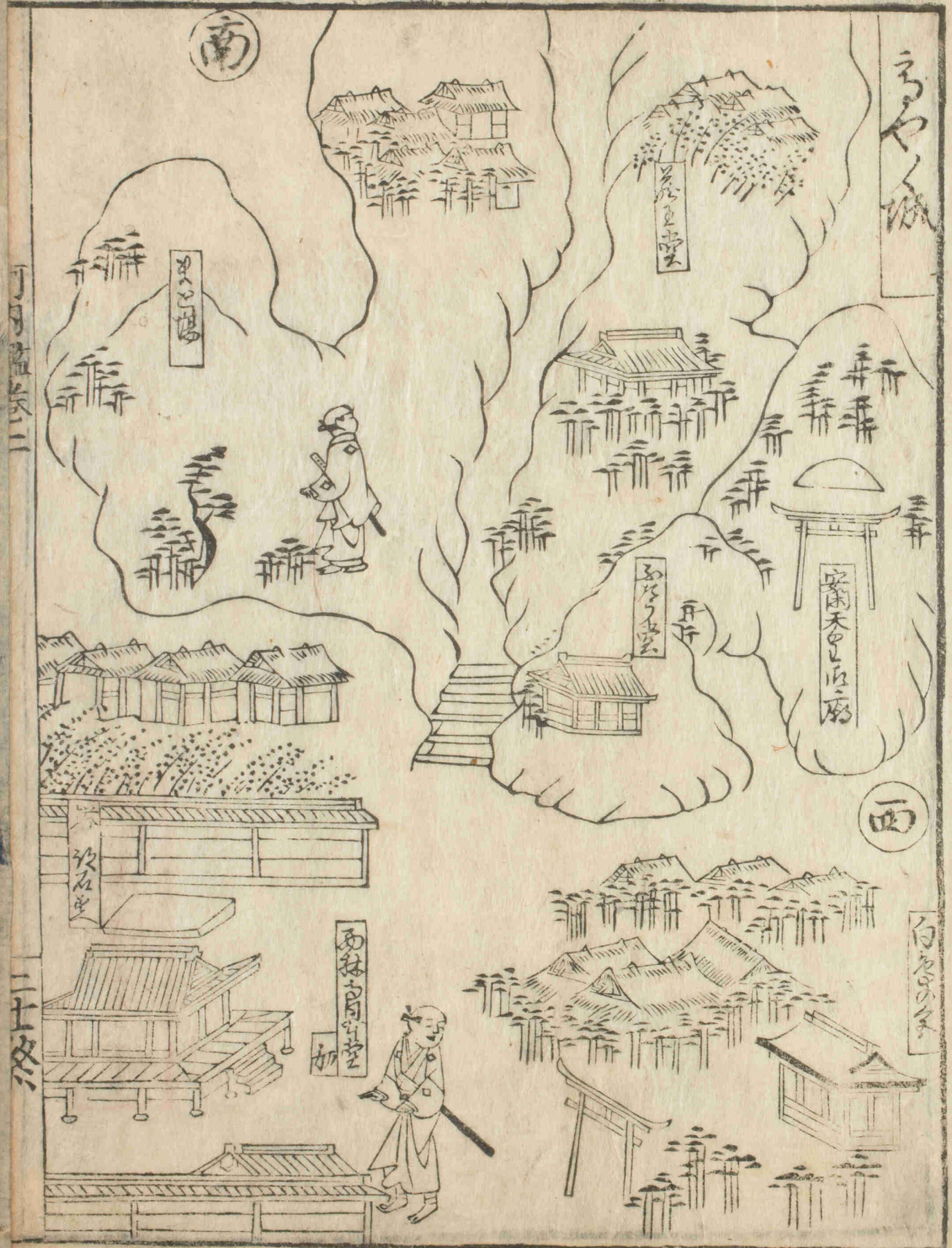
等初日本派之欽明帝天皇勅撰我稱月令守護

之ヲ稱月造向原宅安置之即改為寺号向原寺是

日本佛寺叙初也元享叙書云先天王寺二サ九年

造佛立寺之權也云三回佛法傳通縁起等事委

記之境内四方書等後宇多院宮符宣在之
寶塔真柱石礎底斜一字雕付在之斜柱及
巫謂佛閣宗重國ヲ保故元
一秋尊脇士不動明王 勝三世ぬ王弘法大師ノ作
一座像土面觀音安阿林作世平後歌多
一地藏菩薩天神ノ仇ツトノ地蔵ト云
一間浮檀金土面觀音ハサキノ歌多ト云
まか又寶教ぬわり略ス
意朝
入方ハ月ノ人トあはれ西琳と可讀





阿比國文庫

110X
160
6